



# SIR JOY Press

3

MARCH.2018

公益財団法人 静岡県国際交流協会 Shizuoka Association for International Relations

平成29年度 外国語ボランティアバンク研修会

## クイズと工作で楽しく防災!! ~いつ起こるかわからない災害に備えて~

**English  
information  
is  
included!!**

平成29年度最後の外国語ボランティアバンク研修会のテーマはズバリ「防災」。

日本で生活する以上、防災は生活の一部ですよね！？地震が起きたり、最近の異常気象で川が氾濫したりと、いつ、どこで災害が発生するか予想が出来ません。

何をしている時でも、災害が起こる可能性があるのです。

災害時に備えてどんな知識を身に付け、何を準備するか？

また災害時にはどんなことができるのか？

この機会に一緒に考え、体験してみませんか？



今回の研修会は、静岡県東部危機管理局の方に講師をお願いしております。  
前半の防災講話に加え、研修会後半では防災クイズや防災工作を予定しております。  
また参加いただいた皆さんにもれなく備蓄食料のプレゼントがあります！  
防災工作では、「新聞紙でできるスリッパ」と「キッチンペーパーで作るマスク」  
を作る予定です。

## みなさんお誘いあわせの上、ご参加ください！

日 時：平成30年3月17日(土) 14時00分～16時00分

場 所：沼津労政会館 第1会議室

(沼津市高島本町1-3 静岡県東部総合庁舎北側)

講 師：静岡県東部危機管理局

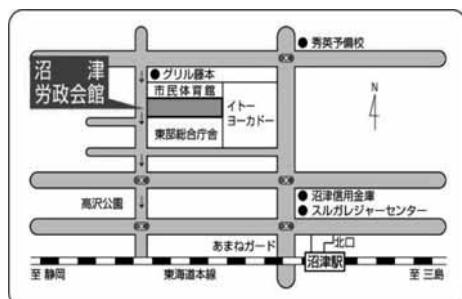
参 加 費：無料

定 員：30名

対 象：外国語ボランティアバンク登録者、通訳ボランティアや防災に興味がある方どなたでも

申込方法：氏名、連絡先、外国語ボランティアバンク登録の有無を、電話・FAX・E-mailのいずれかで協会へ連絡してください。  
先着順で受け付けます。

締 切 日：3月9日(金)



## お問合せ・申込先

(公財)静岡県国際交流協会

TEL: 054-202-3411

FAX: 054-202-0932

E-mail: sir02@sir.or.jp

## Cooking lesson of Japanese home-cooked meal

This is a cooking lesson for International residents who want to understand Japanese culture through making a Japanese home-cooked meal. This is the chance to make a seasonal spring meal.

- When/ Sunday, March 11, 9:30-14:00
- Where/ Fuji-station North exit Machi-dukuri center (6-13, Heigakihoncho, Fuji-shi)
- Fee: 500 yen
- Deadline: March 4
- Capacity: 24 people
- Application: Please come to FILS and pay fee.
- Contact: FILS
- Phone: 0545-64-6400
- Email: fils@div.city.fuji.shizuoka.jp

## Experience Japanese culture ~Pounding steamed rice and play Japanese drum~

This will be a fun event to experience Japanese culture through pounding steamed rice and playing Japanese drums. This event will be held in Baird Brewery Gardens in Shuzenji, which is famous for beer in Shizuoka.

- When/ Sunday, March 11, 10:00-13:00 (opening 9:30)
- Where/ Baird Brewery Gardens (1052-1 Oodaira, Izu-shi)
- Application: please give your name, address, phone number, nationality, age and Email address by fax or Email.
- Contact: IAFR
- Phone: 0558-74-3066
- FAX: 0558-72-6588
- Email: kouryu@city.izu.shizuoka.jp

## Wanted: Volunteer Staff of Spring Holiday Homework for International Children

Volunteer staff are wanted for children who need to study the Japanese language. There will be some recreational activities as well.

- When: Sunday, March 25 10:00-16:00
- Where: Oigawa Kominkan (900 Munataka, Yaizu)
- Fee: 100 yen
- Application: please apply by website
- Deadline: March 24
- URL: <https://yaizu-ichigo.jimdo.com/>
- Contact: Network for Yaizu Multi-cultural Society "Ichigo"
- Phone: 090-6590-4178

- 開催日／3月10日 土曜日
- 時間／14時00分～15時45分
- 会場／起雲閣 音楽サロン（熱海市昭和町4-2）
- 講師／JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）斎藤亮平氏、ピアニスト 亀井皓太郎氏
- 参加費／1500円（中学生以下無料）※チョコレート缶が1つ付いてきます
- 定員／100人（要予約・先着順）
- 申込方法／電話、ファックス、メールにて熱海国際交流協会にお申し込みください。
- 連絡先／熱海国際交流協会（熱海市役所生涯学習課内）
- 電話番号／0557-86-6233（月曜～金曜）
- ファックス番号／0557-86-6606
- メールアドレス／kokusai@atami-ai.jp

## 外国人のための日本の家庭料理教室

富士市在住の外国人に春の家庭料理（ちらし寿し、あさりの吸い物、桜のカッปシフオンケーキ）を作ってもらい、「食」を通じて日本文化の理解を深めてもらうイベントです。

- 開催日／3月11日 日曜日
- 時間／9時30分～14時00分
- 会場／富士駅北まちづくりセンター（富士市坪原本町6-13）
- 対象／中学生以上で富士市内に在住または在勤の外国人
- 参加費／500円
- 締切／3月4日
- 定員／24人（先着順）
- 申込方法／FILSにてお申し込みください。（参加費は申込時支払）
- 連絡先／富士市国際交流ラウンジFILS
- 電話番号／0545-64-6400
- メールアドレス／fils@div.city.fuji.shizuoka.jp

## 日本文化にふれよう会「餅つき＆和太鼓」

伊豆市唯一のビール工場であるペアード・ブルワリーガーデン修善寺を会場に、「餅つき」と「和太鼓」の体験を楽しみながら交流します。伊豆市の和太鼓表現演奏家「喜醉会」による演奏と和太鼓のふれあいやビール工場見学もできます。ご近所や職場で外国出身の人がいましたら是非お声がけください。

- 開催日／3月11日 日曜日

## 富士山を背景に、素敵な「空と海」の旅。 そして楽しさ充実シーサイドパーク!



フジドリームエアラインズ

0570-55-0489 \*IP電話または海外・国際電話などの場合は、  
営業時間 7:00～20:00(年中無休) 054-903-3110をご利用ください。

[URL www.fujidream.co.jp](http://www.fujidream.co.jp)



エスパルスドリームプラザ

054-354-3360

[URL www.dream-plaza.co.jp](http://www.dream-plaza.co.jp)



駿河湾フェリー

054-353-2221

[URL www.dream-ferry.co.jp](http://www.dream-ferry.co.jp)



鈴与グループ

- 時間／10時00分～13時00分（9時30分受付開始）
- 会場／ペアード・ブルワリーガーデン修善寺（伊豆市大平1052-1）
- 参加費／伊豆市交流協会会員:500円、一般:1000円、外国人・学生:500円、未就学児は無料
- その他／飲酒される人は、公共交通機関をご利用ください。
- 申込方法／「①住所②氏名③電話番号④国籍⑤年齢⑥メールアドレス」を書いてメールもしくはファックスでお申し込みください。
- 連絡先／伊豆市交流協会事務局
- 電話番号／0558-74-3066
- ファックス番号／0558-72-6588
- メールアドレス／kouryu@city.izu.shizuoka.jp

## NPO法人VOIS 2018年4月スタート勉強会

2018年、VOISは設立10年を迎えます。2020年には静岡県にもオリンピック競技がやってきます。使える英語を目指して、仲間と一緒に勉強しましょう！

- 開催日／①通訳トレーニング②通訳基礎トレーニング③英語勉強会in三島：4月7日スタート  
④英検1級自主勉強会⑤話すための英語チャレンジ塾（初中級対象）：随時入会OK
- 会場／①②④⑤静岡市番町市民活動センター（静岡市葵区一番町50）、③カフェ&スペースほとり（三島市日の出町4-2）
- 締切／3月15日
- 申込方法／希望勉強会名、お名前、ご連絡先を明記の上、メールでお申し込みください。  
日程、会費など詳しくは、ホームページをご覧ください。
- 連絡先／NPO法人VOIS  
●電話番号／054-263-4250（花木）  
●メールアドレス／voishp@yahoo.co.jp  
●ホームページ／http://vois-english.com/

## 災害時の外国人支援のあり方と災害時通訳の基礎

東日本大震災や鬼怒川の水害では「特別警報」「避難勧告」など難しい言葉を理解できずに逃げ遅れる外国人がいました。災害時発生状況下で活動することを想定して、災害時に求められる支援とは何かを一緒に考えるほか、現場で通訳者に求められる技術の基礎を学ぶ講座です。

- 開催日／3月16日 金曜日
- 時間／13時00分～15時00分
- 会場／いきいきプラザ6階視聴覚室（熱海市中央町1-25）
- 講師／内藤 稔氏（東京外国语大学大学院総合国際学研究院講師）
- 参加費／無料
- 定員／30人（要予約・先着順）
- 申込方法／メール、電話、ファックスにて「①3月16日 災害時通訳の講座参加希望、②お名前③ご住所④連絡先」を記載の上、お申し込みください。
- 連絡先／熱海国際交流協会  
●電話番号／0557-86-6233  
●ファックス番号／0557-86-6606  
●メールアドレス／kokusai@atami-ai.jp

## ヤングラグビーパーティーinエコパ～世界の小中学生とラグビーボールでつながろう～

ラグビーワールドカップ2019出場国・地域出身の小中学生100人をエコパに招待し、静岡県内の小中学生と交流します。ラグビーボールを使った交流、ヤマハ発動機ジュビロの選手との懇談会など楽しいプログラムがあります。当日は県内複数駅から無料ツアーバスを運行します。

- 開催日／3月17日 土曜日
- 時間／10時30分～14時00分
- 会場／小笠山総合運動公園エコパスタジアム（袋井市愛野2300-1）
- 対象／静岡県内の小中学生
- 参加費／無料
- 定員／300人（先着）
- その他／※必ず保護者が同伴してください※イベントには英語通訳がつきます
- 締切／3月12日
- 申込方法／①ホームページにより申込み  
②申込書をファックスで申し込み③必要事項（氏名（子供・保護者）、性別、生年月日、学校名（学年）、連絡先、ラグビー経験の有無、シャトルバス利用の有無）を記載し、メールにてお申し込み
- 連絡先／静岡県文化・観光部ラグビーワールドカップ2019推進課  
●電話番号／054-221-2587  
●ファックス番号／054-221-2980  
●メールアドレス／rugby@pref.shizuoka.lg.jp

## 春休み しゅくだいひろば

外国にルーツを持つ子供たちの、春休みの宿題や、日本語の勉強をお手伝いをするボランティアを募集します。午後は色々なレクリエーションを行います。

- 開催日／3月25日 日曜日
- 時間／10時00分～16時00分
- 会場／焼津市大井川公民館（焼津市宗高900）
- 対象／高校生～一般の学習支援ボランティア
- 参加費／100円
- 締切／3月24日
- 申込方法／ホームページのメールフォームからお申し込みください。
- 連絡先／多文化共生を考える焼津市民の会「いちご」  
●電話番号／090-6590-4178  
●ホームページ／https://yaizu-ichigo.jimdo.com/

## 講座・講演会

LECTURE

### 2018年度中国語通訳案内士受験対策講座

訪日外国人の大幅な増加（特に中国語圏）に伴い、中国語通訳の需要が増加しており、通訳案内士の受験対策を行います。

- 開催日／3月3日（第3土曜日以外は開催予定）～8月末
- 時間／10時00分～15時00分
- 会場／静岡市清水活動センター（静岡市清水区港町二丁目1番1号）
- 対象／中国語検定1級またはHSK6級程度の中国語レベルを要する人
- 参加費／無料
- 定員／6人
- 申込方法／お電話にてお申し込みください

- 連絡先／中国語サロン
- 電話番号／080-3619-2089（担当：栗原）

## 海外・留学情報

FOREIGN COUNTRIES INFORMATION

### 夏休み 短期留学・ホームステイ & 正規高校留学 個別無料相談会

夏休みに海外に行きたい、短期留学の申し込みが間に合うか不安な方に向けてセミナーを開催します。

- 開催日／3月17日 土曜日
- 時間／10時00分～16時00分
- 会場／静岡市清水産業・情報プラザ7階（静岡市清水区相生町6番17号）
- 申込方法／メールか電話にてお申し込みください。
- 連絡先／Global Jam  
●電話番号／090-2130-8414（担当：鈴木）  
●メールアドレス／globaljam21@gmail.com

## 留学個別相談会

個別相談会内で、設立13年を迎えたアズ留学センターの経験豊富なカウンセラーがなんでも質問にお答えします。希望に沿ってあなたの夢を丁寧にサポートします。夏休みや秋からの休学留学のご相談など、お気軽にお問合せください。

- 開催日／3月24日 土曜日
- 時間／11時00分～13時00分、14時00分～17時00分の間で一人30分～60分程度
- 会場／アズ留学センター内（浜松市中区板屋町101-22小川ビル3階）
- 対象／留学に興味のある方
- 参加費／無料（要予約）
- 申込方法／メールか電話でご予約ください。
- 連絡先／アズ留学センター  
●電話番号／0800-888-6188  
●メールアドレス／info@az-ryugaku.com

## 相談会

CONSULTATION

### 外国人のための無料法律相談会（浜松）

法律に関する相談など、何でも。英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語に対応します。

- 開催日／3月29日 木曜日
- 時間／13時00分～16時00分（受け付けは、9時00分～15時00分）
- 会場／浜松市多文化共生センター（浜松市中区早馬町2-1）
- 対象／外国人およびその代理人、外国人と利害関係のある日本人
- 参加費／無料
- 定員／受付順に相談します。希望者多数の場合は相談できない場合もあります。
- 申込方法／電話または来所にてお申し込みください（直接会場へもどうぞ）
- 連絡先／公益財団法人 浜松国際交流協会  
●電話番号／053-458-2170

# 外国人就業・定住事業にかかる外国人を対象とした教育訓練

静岡県国際交流協会では、厚生労働省委託「地域創生人材育成事業」（静岡県労働政策課：静岡型定住外国人就業・定着システム構築事業）として、定住外国人と企業に寄り添った就業マッチングを進めるとともに、就業前の教育訓練や就業後（試用期間）に生ずる言葉や生活習慣などの違いに伴う諸問題を分かち合うアドバイザーを派遣することにより、定住外国人の就業と職場定着を支援する事業に取り組んでいます。静岡県の企業で活躍する外国人正社員は着実に増えています。

そのような中、2月4日にワークピア磐田において、(一社)磐田国際交流協会と連携し、外国人住民を対象とした教育訓練を実施しました。

株式会社サンワネットに大型トラックドライバーとして働いている松本クラウディオさん（磐田市在住）が、正社員になりたかった思いや、実際働く中で感じていることを紹介しました。

企業の情報がなかったため長く派遣で働いていたが、正社員との格差を感じていたこと、派遣会社を通さなくて自立できること、また、働くうえでは、日本語のコミュニケーションが何より求められることから、日本語を学ぶことの大切さなどを話してくれました。

ブラジル人の4名の受講者との質疑応答も積極的に行われ、大変貴重な場となったようです。



▲真ん中 松本クラウディオ氏

# 静岡県・日本語ボランティアセミナー2018

1月8日(月・祝)「グランシップ」(静岡市)で開催されました。年に一度、県内外から日本語ボランティアや地域日本語教育に関心のある方が集まり、多文化共生社会における日本語教室の役割や課題について様々な角度から再考しました。当日は、県内外から約270名が参加し、終日熱気にあふれた一日となりました。

## 基調講演「地域を世界にひらく日本語教室21箇条」

講師 春原憲一郎氏 ((公財)京都日本語教育センター・京都日本語学校校長)

講演冒頭より、物事が世界規模で拡散するようになり、同時に社会は収縮しているという世界の動向が示されました。1970年以降、多くの国で人々が健康になったことから、世界的に人口が増え、経済格差が国家間でも国内間でも生じ、さらに個人格差が広がっています。また、世界的に都市化・個人化が進む中で、安価な労働力の調達を目的とする外国人の受け入れはいずれ底をつくという解説がありました。国連が採択した「No one will be left behind (だれも置き去りにしない)」というスローガンでは、「包摂的」ということばを何度も使い、生涯に渡り教育を保障すること、誰でも真っ当に働くこと等について世界で足並みをそろえ進んでいくという指針を示しているということでした。



一方、日本ではこうした世界の動きからはまだ遅れており、例として女性の参政権やスポーツ競技への参加の歴史が浅い事等が挙げられました。これは日本の「外人」観も通じており、すでに様々な人が地域で暮らし、関わりが避けられなくなった時代において、人々の意識も変化をしていかなければなりません。春原先生は、これからはお互いが多様性を認め合い、力を発揮していくこと、「共生」と言っても「共に生きる」からさらに一步踏み込んで「共に生み出す」存在になるべきではないかと説かれました。

さらに、地域日本語教育は、地域の営みの中の一つであることから、地域を考えるということは暮らしを見つめるということ、地域を変えるということはすなわち暮らしを変えるということにつながるというお話をありました。日本語教育ありきではなく、地域の実情に合わせて日本語教室を設け、未来に開いていく心掛けが地域における存在意義と人々の生活や意識に変化をもたらします。そこで関わる人たちに求められるのは「開かれた専門性」であり、人と人をつないでいくこと、風通しのよい議論をすることが重要であると説かれました。時に、自分と合わない人がでてきても、話す工夫に気をつけながら相手との距離感を図り、他人に任せてみたり、折り合いをつけることが「互いに変わる」ことにつながります。地域日本語教室は「こうでなければならない」という考え方の中で決めたり、選択したりするのではなく、さまざまな人と議論を繰り返しながら「これもあれも」楽しく実践していく、その過程で行き交う外国人、日本人、ときには赤の他人とのコミュニケーションこそが「ことばをひらく」ことであり、地域の変化につながっていくのではないか、と述べられました。

聴講者からは、無理をせず「樂習」になるための工夫を心掛けたい、春原先生の社会性、国際性、哲学など多分野にわたる深い見識に圧倒された、「日本語教育は外国人のためだけにあるのではない」ということばが響いた等、多くの感想が寄せられました。

## 分科会A 「地域日本語教育の役割とは」

講師：神吉宇一氏（武藏野大学大学院准教授）

事例発表者：久木野和暁氏（伊豆の国市国際交流協会）、岸川順子氏（NPO掛川国際交流センター）、西崎稔氏（静岡県ベトナム人協会）

まず、日本全体の現状として、在留外国人の増加の中でも永住を占める割合が最も多く、留学や技能実習も増加していることを確認しました。次に伊豆の国市国際交流協会 久木野和暁さん、NPO掛川国際交流センター 岸川順子さん、静岡県ベトナム人協会 西崎稔さんよりそれぞれの日本語教室の現状と課題について発表していただきました。久木野さんからは、日本語を「教える」というよりは、日本語ボランティアと外国人が「日本語を話そう」ということを理念としており、これまでの経験の中で積みあがっている地域での認知度や人とのつながりが現在の活動に活きているというお話をありました。一方で、小旅行やイベントになると大勢参加する外国人も、普段の活動になると人数が減ってしまう等という課題が聞かれました。岸川さんからは、日本語教室は外国人が日本語を学ぶためだけの場ではなく、世代を超えた地域住民が集う場となるように工夫しているという発表が聞かれました。また、中級以上の日本語活動が不十分であるということや、教室活動をどう実生活につなげていくか、課題を抱えているということでした。西崎さんからは、会の中でベトナム人同士の助け合う人間関係ができている一方、実習生の増加や子どもへの学習支援など、人数の増加だけでなく、学習者の生活課題が複雑になっていることが課題として挙げられました。神吉先生からは、多くの日本語教室で行われている体験活動やイベントは、単なる経験で終わらせるのではなく、「まとめる」作業を取り入れると学習者の「学び」につながること、日本語教育に関係のない地域住民を教室のゲストに迎えることで、より参加者同士の交流や協力体制の接点が増えること、日本語ボランティア側も技能実習生の制度を知り、企業からのニーズにうまく応えていくとよい等のコメントがありました。



後半は「理想的な地域・社会」をテーマに、グループごとに「どのような地域社会をつくりたいと考えているか」「地域づくりで大切にしたいことは何か」について、付箋を使しながら各自がキーワードを書き出して意見交換しました。日本語教室は社会の縮図であり、実現したい地域社会像が日本語教室の像にもなるのではないかという考え方からこのような意見交換を行いました。また、参加者からはグループ内だけでなく全体に向けて活発に質問や意見が出されました。日本語を教える活動に日本語教育の知識は必要なのか、地域で大切にしたいことは何か、支援者に求められる姿勢とはどんなものかなど、参加者の経験談や実例を交えながら全体で意見を共有しました。

最後に、神吉先生からは、「教える」ことに関心を高めるのではなく、どうしたら相手が学ぶのかという点に関心を持つこと、人は経験したことにアドバイスが加わると学びが深まるところから、日本語教室では学習者の経験を整理し、言語化する手助けをしてあげるといふのではないか、という解説がありました。さらに、日本語教室が疑似体験の場で終わらず、教室そのものが社会参加につながるように、やわらかな人間関係から日本語を使う機会を増やす工夫を設けるとよいというお話をありました。

## 分科会B 「外国人の子どもが置かれた現状と課題とは何か」

講師：小島祥美氏（愛知淑徳大学交流文化学部 准教授）

始めに、憲法26条に定められる就学義務を負う対象に外国人が含まれていないのに、納税の義務を負うものには含まれる、そんな不均等な日本社会の現状に疑問を持ち、就学の実態が分からぬ「社会で見えない外国人の子ども」について調査をした小島先生の経験談をお聞きしました。調査では、岐阜県可児市が協力をしてくれることになり、二年にわたってすべての外国籍住民の家庭を3度訪問したところ、不就学者がいること、中退したり就労したりする子どもが多いことが分かったそうです。この実数を示した上で「不就学ゼロ」を目指し、市の教育委員会や行政、学校や地域と連携し取り組んだところ、一年後には不就学ゼロを達成したということでした。

次に、実態調査により明らかになった子どもたちの成長を支える三つのポイントである ①「良き人との出会い」、②「自己」の進路選択、③居場所 について語られました。初めて会う同じ地域に暮らす大人が、子どもの生き方や将来に大きな影響を及ぼすので、子どもに寄り添い、理解し、励ましたり奮めたりしてくれる大人に出会えれば、子どもに新しい世界がどんどん開かれていくことになる、という解説がありました。また、子どもたちに求められるサポートとして ①学習するモチベーション、②自己肯定感 の重要性が示されました。学校での成績が悪かったが、その子どもに合った将来を設定し、それに向かって前向きに進めることで夢をかなえた子どもの事例紹介があり、こうした子どもの例から、一度つまずいても、もう一度やり直しができるシステム作りが重要であるというお話がありました。「夜間中学」もその一例で、子どもが就労しながら学びなおしができる場を設ける等、体制づくりの検討が急務であることを説きました。

また、子どもを取り囲む家族へのサポートも重要です。「無関心のように見える保護者」を責めるだけでは問題解決にならないことから、正しい情報を提供し、家族も巻き込んでモチベーションをあげる必要があります。

そして、子どもへの日本語・学習支援の手立てとして、リライト教材の作成について紹介されました。リライト教材作成の原則は「表現はやさしく」「内容は相当学年レベルで」です。簡単な日本語にするばかりでなく、年齢相応の表現などについては、ある程度学べるように工夫する必要があり、グループワークを通して体験しました。子どもの現状や環境に合わせて、一人一人に合った支援をすることが重要であることを学びました。

小島先生からは、子どもが抱える問題や生活背景は様々で、個々の事情を踏まえてサポートすることは、難しいことですが、子どもの能力が開花するように、地域の人が応援団となり、長期的な支援を、一緒に頑張りましょう、という力強いメッセージが送されました。参加していた受講生は小島先生のパワーとエネルギーに勇気をもらいました。



## 分科会C 「外国人が日本で暮らすということ－当事者の声を聴こう－」

講師：池上重弘氏（静岡文化芸術大学副学長）

まず始めに、池上先生より国内の外国人受け入れ状況、静岡県の外国人の状況について解説がありました。日本全体では、外国人住民は約20年で100万人から200万に倍増しています。1990年の入管法の改正を契機に、南米系日系人の増加が顕著となり、近年はフィリピンやベトナムからの技能実習生や、ネパールからの入国者増加が見られます。また、永住・定住資格を持つ外国人が、在留外国人の半数以上を占めており、実質的な移民が増加していると述べられました。静岡県においては、国籍別では、ブラジル、フィリピン、中国の順に多く、特に県西部ではブラジル人の集住地区があります。また、こうした外国人の在留資格は「永住」が半数を占めていることから、静岡県でも外国人の日本滞在の長期化が著しいことを理解しました。さらに、池上先生が実施した磐田市における外国人調査の例から、ブラジル人、フィリピン人は、滞在年数が長くても十分な日本語能力が身についていない人たちの割合も多いということを知りました。



次に、ブラジル出身のメスラレシケ クレベル ショイチさん、フィリピン出身の宮村パメラさん、ブラジル出身の宮城ユカリさんからご自身の日本語学習の経験についての発表がありました。ショイチさんは、家族三人で来日し、派遣雇用の工場勤務を経て、鈴与カーゴネット株式会社に正社員のトラックドライバーとして勤務しています。初めは全く日本語が話せなかったため、業務に支障が出ることもあったそうですが、優しい同僚と上司に日本語を教えてもらい、またご自身も100円ショップで購入した子ども向けの日本語教材などを使い、地道に日本語を学んだそうです。企業もショイチさんの活躍に期待していることから、現在は、企業が参加費を負担し、日本語教室に通っているということでした。宮村パメラさんは、フィリピンで出会った日本人のご主人との結婚を機に来日しました。しかしながら、来日後、すぐにご主人が病に倒れたことから、日本語がわからない中、看病と子育てに追われたそうです。そして、義母やフィリピン人グループの仲間に助けられながら地域の日本語教室にも通い、日本語能力検定3級を取得しました。現在は子育て、パート勤務、フィリピン人自助グループ「フィリピンNAKAMA」の代表を務める忙しい日々を送っています。宮城ユカリさんは、小学校2年生の時にブラジルから家族で来日しました。来日時は全く日本語がわからず、編入した学校では一年間は取り出し授業で基礎的な日本語を学んだそうです。同じ学年にブラジル人はいませんでしたが、担任の先生と母語支援者に支えられ、クラスになじめるようになり、友達もできたというお話をしました。現在は、静岡文化芸術大学に通っていますが、ポルトガル語よりも日本語を話す方が楽で、ポルトガル語を忘れてしまうこともあるということでした。また、外国にルーツをもつ子どもとして、自分は何人なのかと、ご自身のアイデンティティについて自問自答することがあるそうです。将来は、同じ外国にルーツをもつ子どもの支援や日本語教育の分野で活躍したいという目標が聞かれました。

講義後半は、グループに分かれ、三人の発表をふまえ、日本語支援について思うことや外国人が抱える言葉の問題、支援の状況等について参加者同士で意見交換をしました。参加者からは、「日本語を学ぶ学習者の生の声をきけてよかったです。」「外国人が置かれている現状がよく分かった」などの声が聞かれました。

# 静岡人・地球人

## 李 錫泳（イ ソギョン）さん

李 锡泳（イ ソギョン）さん（写真）はJET プログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme）で2016年に来日してから静岡滞在は1年10か月になる。

現在、静岡ツーリズムビューロー（TSJ）に籍をおき、静岡県の観光振興に取り組んでいる。



### Q：日本に来るきっかけは何だったでしょうか？

A：子供の頃、日本のゲームや漫画をみて、日本語に興味を持つようになりました。高校時代に、第2外国語で日本語を勉強してみたら、日本語勉強のことが楽しく、大学の専攻を日本語にしました。韓国京畿大学で日本語、日本文学を専攻し、日本語だけでなく、日本の文化、歴史、社会等、多方面から日本のこと勉強しました。

将来、自分が今まで勉強してきた知識と経験を活かして日本で働いていきたいと思い、JETプログラムへ参加して静岡にきました。

### Q：現在の主な仕事はどんなことですか？

A：「出前教室」、「訪日教育旅行」、「インバウンド誘客事業」のお仕事をさせていただけます。出前教室は県内の学校や大人向けに、韓国の概要・文化的な違い・学校生活等、申し込みがある学校に訪問し、文化講座を行います。また、海外からの教育旅行、訪日教育旅行で静岡県内の学校に訪問、学校交流を行うことに交流内容の調整、コーディネートする業務を担当しています。

また、静岡県により多くの外国人旅行者がお越しいただくための事業も推進しています。特に日本人が気づきにくい点を掘り下げ、SNSなどを利用して海外からの訪日を計画している人に呼びかけています。

### Q：静岡はどうでしょうか？

A：「富士山」といのは日本を代表するイメージとして多くの外国人に知られていますが、静岡という地名、また、富士山が静岡に位置していることは殆ど知られていない、日本の47都道府県というのも外国人にとっては分かりません。

静岡には日本一の山「富士山」だけでなく、静岡ならではの、静岡でしか楽しめない自然、食、体験が存在しています。

「日本」という国に行って、素敵な体験と旅を楽しみたい海外からの旅行者たちに、静岡が持っている魅力を発信し、静岡のことを堪能していただきたいと思っています。

### Q：何を発信したら効果的でしょうか？

A：静岡は海、山、河が揃っており気候も温暖で自然環境に非常に恵まれています。

日本一の緑茶生産地でもあり、わさび、富士宮やきそば、静岡おでん、浜松餃子、うなぎ等地域の特色ある食材やグルメも満載しています。もちろん、富士山を前に飛行するパラグライダーやサイクリング、ハイキング、キャンピング等海や山での体験も充実しています。

静岡に存在する、静岡でしか味わえない体験、食、旅の魅力を発信していくのが大切だと考えております。

### Q：そのうえで、ここは静岡ですよということがわかれればいいわけですね。

A：今の時代はインターネットやSNS、メディアを通じて世界中に情報を発信することができます。発信する国によって、効果的な広報手段も違ってきますが、発信したい市場のトレンドを正しく理解・把握した上で、その市場向けの情報を発信していくのが重要だと考えております。

韓国はネット社会と呼ばれるほど、職場だけでなく、インターネットは普段の人の生活に密接しています。たとえば、冬休みの旅行を計画する韓国人は、大半がインターネットを通じて旅先の情報収集、航空券、宿泊の手配、もしくはパッケージツアーの購入を行っています。そういう国柄に合わせて、私は普段、静岡の情報をインターネットを通じて韓国の皆様に発信しています。

### Q：もっと臆せず発信していったらいいということですね。

A：静岡の皆様ひとりひとりが自分がいる郷土に誇りを持って、また外国人だからといって、何か特別なことを用意するのではなく、文化的な違いのことを配慮いただいたうえで、皆さんの郷土で世界をお迎えするということが大事ではないでしょうか。

### Q：ありがとうございました。これからのご活躍を大いに期待しております。



私は富士山のことが大好きです。この写真は私が直接撮影した写真であり、2016年度NHK富士山写真コンテスト「富士山大好き」部門で入選した作品です。



ボランティアの通訳として参加した、日本の地域の魅力を知るために訪日した韓国大学生たちが宇津ノ谷峠の明治トンネルを見学している写真です。

有名な観光地でもなく、あまり知られていない所ですが、地元の方々が概要、歴史・文化的な価値やお話をしていただくことで、大学生たちも興味を持ち、静岡の魅力を知っていました。



生のわさびは静岡で初めて見て、食べました。

静岡はわさび栽培の発祥地であり、日本一のわさび生産地でもあることに驚きました。

みかが行く!

# SHIZUOKA×WORLD STORY

これまで SHIZUOKA×WORLD STORY で年に 3 回、JICA ボランティアを紹介させていただいておりましたが、今回の 3 月号で、一旦休止とさせていただくことになりました。いつもお読みいただきまして、本当にありがとうございました!今後はまた違う形で皆さまに JICA のイベントや県内の国際協力に関するホットな情報を紹介していくらと思っています。そして、今回紹介させていただくのは、私が青年海外協力隊で経験してきた西アフリカのガーナについてです!



## 静岡県国際協力推進員

やまぐちみか  
山口 実香  
(伊豆の国市出身)

こんにちは。JICA 静岡県デスクに昨年 10 月から新しく着任しました、山口実香と申します。青年海外協力隊として 2 年間の任期を終え、昨年の 6 月末に帰国しました。派遣されていたのはカカオ豆の生産地で有名なガーナという国で、そこは日本の夏のように暑いところでしたので、日本の冬の寒さに慣れるのにとても苦労しています。



ない」と答えた後の警察官の口説きは想像にお任せします(笑)。本当に積極的です。ガーナにいた二年間、結婚しようと何人の人に言われたか・・・数え切れません。日本に帰ってきてからはゼロです(笑)。



## ●最後にメッセージ

私はガーナにいたことで、本当にかけがえのない友達ができ、貴重な経験をすることができました。この感謝は本当に言葉では言い表せません。もし応募を悩んでいる方や行くことに不安を抱えている方がいらっしゃいましたら、ぜひお話を始めましょう!少しでも一緒に考えていくたいなと思っています。お気軽にご連絡下さい。

## ◎イベント告知

### ・JICA ボランティア春募集

募集期間: 2018 年 4 月 2 日(月) ~ 5 月 1 日(火)  
正午まで

最新情報はこちらでご確認下さい。

URL: <https://www.jica.go.jp/volunteer/>

### ・JICA ボランティア写真展

場所: 静岡県立中央図書館 3 階展示室 ( 静岡市駿河区谷田 53-1 )

内容: 写真の展示や民族衣装の紹介、現地の小物を展示

展示期間: 2018 年 4 月 25 日(水) ~ 5 月 30 日(水)

9 時から 17 時 (休館日: 4 月 27 日、5 月 7 日、5 月 21 日)

★4 月 26 日(木)と 28 日(土)の 13 時から 16 時は出張個別応募相談会を開催します。春募集で応募を考えている方必見です★

(山口実香)

## 《その他 お問い合わせ先》

静岡県 JICA デスク 山口実香

E-mail: [jicadpd-desk-shizuokaken@jica.go.jp](mailto:jicadpd-desk-shizuokaken@jica.go.jp)

TEL: 054-202-0931



## ●海外に興味を持ったきっかけ

大学生の時に、初めてフィリピンのスタディツアーに参加したのがきっかけです。そこで初めて日本と違う世界に衝撃を受け、当時は看護学生だったので、将来看護師として医療も十分に受けられない所で、何か人の役に立ちたいと思い、それが私の将来の目標になりました。

## ●JICA ボランティアに応募するまで

看護学部を卒業後は、4 年間都内の病院で看護師として勤務しました。看護師の仕事は想像以上に過酷で、夜勤などもこなし、毎日仕事で精一杯でした。しかし、学生の時に行つたスタディツアーの思い出が忘れられず、社会人になってからも、難民キャンプへ行ったり、中東のイランへ行ったりと、気になる場所には、直接現地まで足を運びました。当時を振り返ると、本当に行動力がありました。夢や目標があったから、仕事も頑張れたんだと思いました。

## ●ガーナで取り組んだこと

私の配属先は日本でいう保健所で、そこを拠点に病院や地域の村を巡回しながら活動してきました。私の職種である感染症・エイズ対策は、病気の治療ではなく、病気にならないように予防の大切さを伝えていくことが大きな役割です。現地で猛威を振るっているマラリア(蚊を介して感染する病気)や下痢、HIV/AIDS などの性感染症等を防ぐために、



学校等で予防啓発活動を行いました。

## ●ガーナで大変だったこと

生活環境が日本と全然違うので、頻繁に起こる停電や断水には本当に苦労しましたが、周りに優しいガーナ人がいてくれたお陰で、苦労も楽しみながら生活することができました。一番大変だったことは、言葉でした。現地の言葉(ダバニ語)の習得には本当に苦労しました。

## ●ガーナの良さ

ガーナ人は家族をとても大切にします。もし家族と同じ名前の人があれば、親しみと尊敬を込めて「Mama」「My brother/sister」とその方を呼ぶことがあります。彼らはよく、人間はみんな血の繋がった家族だと言います。普段から、人と壁を作らないところは、本当にすごいなと思いました。

## ●ガーナ人にとって日本はどう映っているか

私が日本人だと言うと、みんな大喜びします。道を歩けば手を振ってたり、挨拶されたりします。まるで有名人になったような待遇を受けます(笑)。彼らは口々に言います。「日本は俺たちのことを助けてくれた」「テクノロジーが発展していてすごい国だ」と。ガーナに初めて青年海外協力隊が派遣されて 40 年が経過しました。多くの日本人がガーナのために活動し、今でも現地の人は感謝しています。同じ日本人としてとても誇りに思いました。

## ●ガーナでびっくり体験

「ナンパ」です(笑)。ある時、バスに乗っていて車が一旦止まった際、銃を持った警察官が私の方に寄ってきました。「身分証のチェックをされるのかな」と不安を抱えながら座っていると「旦那はいるのか?」と聞かれました。「い

# 世界をつなぐオレンジネット

今では、静岡にゆかりのある皆さん、世界の国々で活躍しています。「世界をつなぐオレンジネット」のコーナーを開設し、インターネットにより海外の県人会やグループから送られてきた、生活や活躍の様子を伝えるコメントや写真を紹介します。そして、「世界をつなぐオレンジネット」がきっかけとなり、世界の皆さんと双方向の新しい情報交換や交流が始まる事を期待しています。

今回はペルー県人会からのお便りです。



みなさん、こんにちは、深澤 宗昭（ふかさわ むねあき）です。  
ペルーで行なわれている色々なイベントについて情報発信します。

2018年ペルー静岡県人会の新年会を行いました。参加者が和気あいあいと会を楽しみ、新年を祝いました。



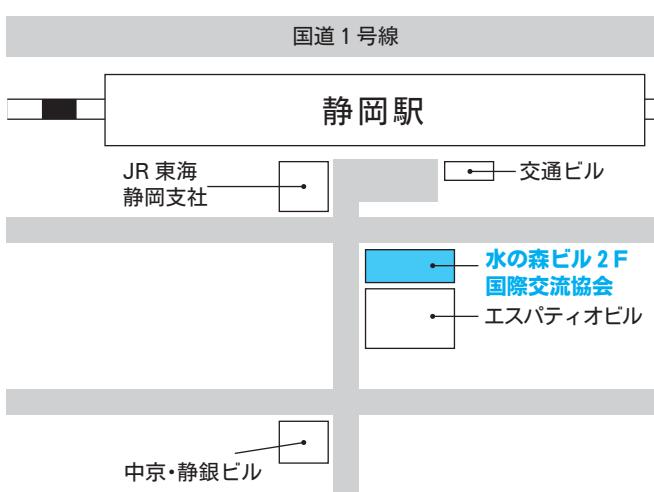
## 国際交流・イベント情報の募集

SIR JOY Pressの情報欄に掲載する情報を募集しています。掲載希望の方は、必要事項をご記入のうえ、事務局までお送り下さい。締め切りは、掲載を希望する前月の10日までが目安です。

## 寄付をお願いします。

当協会では、国際交流活動に関わる方々（NPOなど）を支援するため、県民の皆様より寄付を募っています。さらに充実した活動を実現させていくために、皆様のご理解・ご協力をお願いします。

●一口：1,000円（何口でも結構です）



地球人だ。

SIR JOY Press 第237号 2018年3月1日発行

発行／公益財団法人 静岡県国際交流協会  
〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町14-1 水の森ビル2F  
TEL 054-202-3411 FAX 054-202-0932  
<http://www.sir.or.jp/> E-mail [info@sir.or.jp](mailto:info@sir.or.jp) 印刷／池田屋印刷株式会社  
この情報誌は再生紙を使用しております。

